

学燈 *gakutou*

【第11号】



～院生が語る教職大学院での学びの日々～

【教職実践開発コース（ストレートマスター）1年】

学校経営コースの現職院生と共に講義を受けながら、現場で必要な知識や技能、授業で考えるべき視点について学んでいます。

「道德教育の理論と実践B」という授業では、現職院生とともに授業を立案し、模擬授業を行いながらその改善を図りました。

まずストマス院生で話し合いを行いながら授業を立案しましたが、その後、現職院生からのご指摘やご質問をいただき、授業をつくる際に注意することや大切にすることを学ぶことができました。ストマス院生だけでは気づくことができない視点からのご意見は、学校実習での実地授業にも生かすことができ、私自身の実践を深めることにもつながっています。現職院生とともに学ぶことで、よりリアルな状況について考えることができ、現場で実際に課題になっていることや、実践されていることを参考にすることができました。さらに、これまでの学びの成果を再確認することにもつながっています。



また、現職院生とともに活動することで、幅広い年代と協働する力をつけることができます。自ら考えを提案し、アドバイスをいただきながらより良いものに改善していくことは、現場に出てからも必要なスキルになるはずであると感じています。

教職大学院での学びは、実践について深く考察することができるとのことです。ストマス院生や現職院生、大学の先生方という様々な立場から話し合いを行うことで、日々新しい発見があり、よりよい実践について考えることもできます。今後も、多くのことを学ぶとともに理論と実践を構築していきたいと考えています。

【学校経営コース・特別支援教育コース1年】



学校経営コース・特別支援教育コース1年の授業に「学校組織マネジメント探求」があります。原籍校についてSWOT分析を行うなど学校マネジメントについて基礎固めを行った後、茨城県つくば市にある独立行政法人教職員支援機構(NITS)にて「学校組織マネジメント指導者養成研修」に参加するという構成です。NITSでは、全国から集まった先生方と、大変密度の濃い学びの一週間を過ごしました。

講座「学校組織マネジメントの実践に向けて～学校の戦略マップを作る～」では、グループに分かれて戦略マップを作成する場面もありました。「ありたい姿」と「現状」のギャップをなくし、期待を実現することをめざして戦略を練っていきました。多くの山口大学教職大学院院生の原籍校が事例校に選ばれ、山口県教育の質の高さを再認識した一週間でもありました。



一日の研修のまとめとして、他県の教職大学院との交流を行いました。その日の学びを振り返り、先生方と情報交換をすることで、一層学びを深めることができました。例えば特別支援教育の視点では、将来の自立と社会参加を目指して指導内容を厳選しながら教育活動を行うため、カリキュラム・マネジメントは欠かせないということを再認識できました。

この講義で学んだ研修成果の活用を、院生は様々な機会に行っています。例えば「萩市大学連携地域づくり推進事業」では、学校改善を目指した戦略について、研修で学んだことを地域に還元する取組を行っています。



山口大学教職大学院 中間発表会・成果報告会

多くの皆様にお越しいただきありがとうございました！

中間発表会	令和2年1月11日(土)	9:00~13:00
成果発表会	令和2年1月25日(土)	9:00~16:30